

## ■旧南豆製氷所（なんずせいひょう）

1923年（大正12年）に伊豆製氷冷蔵株式会社の下田工場として建造され、後に所有者の変更に伴い「南豆製氷」と改称されました。漁業基地として繁栄していた下田の水産業を80年間にわたり支え続けた製氷工場です。大正浪漫の面影を宿す建物は、江戸時代に半島の基幹産業であった伊豆石造りの伝統と技を今に伝えています。全国でも希少な産業遺産で、2007年には下田市初の国の登録有形文化財に指定されました。2004年の廃業後に保存の機運が盛り上がり、紆余曲折を経て2006年に市外の篤志家が購入したことで解体を免れました。この三年間は下田内外の市民によって多様なイベントに使われています。

## ■登録有形文化財

国内の保存・活用すべき建造物を文部科学大臣が文化財登録原簿に登録する制度です。2006年2月現在、全国で5,913件が登録されています。対象となるのは建てられてから50年以上を経た建造物で、条件は「国土の歴史的景観に寄与しているもの」、「造形の規範となっているもの」、「再現することが容易でないもの」。さまざまな産業遺産が登録されていますが、製氷工場の登録は全国でも南豆製氷が初めてです。

## ■景観行政団体

指定を受けた地方公共団体は2008年3月現在、332団体。静岡県内では熱海市、伊東市、沼津市、富士市、三島市、新居町、富士宮市が指定されています。下田市は2007年度に指定されました。景観行政団体となった自治体は景観計画を策定し、観光振興などの目的のためにまちなみを整備することができます。下田市は2009年度の策定を目指しています。

## ■まち遺産—small town heritage

世界遺産のような規模はなくても、まちの人たちが大切にしてきた歴史的な建物や風情のある景観を意味する造語です。広い意味では、まちを取り巻く自然環境や、まち特有の伝統芸能、職人技なども含まれます。

## ■下田まち遺産連携会議

市民有志、下田TMO（株）、南豆製氷応援団、NPO地域再創生プログラム（東京）など、歴史的建造物の保存や、まちづくり活動に取り組む個人・団体の集まりです。2006年には下田旧町内の1,300軒の建物を対象とした「下田まち遺産調査」を実施しました。



## ■南豆製氷の今後について

2008年6月までに将来的な活用案を所有者に提案することになっています。現在は所有者のご厚意により南豆製氷応援団が支援者からの募金を元に管理・運営を行っていますが、建物を構造的に補強する資金が捻出できなければこの貴重な文化財は保存できません。

そこで、南豆製氷の補強・改修・活用案を作る目的で、下田まち遺産連携会議の有志が「南豆製氷活用グループ」を結成し、下田と東京で検討を重ねてきました。私たちは独特な外観を持つ南豆製氷を今後の下田のまちなみづくりの重要な基点と考えています。伊豆石の伝統や技術、近代下田の水産業について学ぶ見学施設、観光情報などの発信基地、誰もがひと休みできる憩いの場、多彩なイベントが開催できる会場として活用することで、地域に暮らす人と訪れる人の交流拠点として南豆製氷を保存・再生したいと考えています。